

川龍山 興禅寺

所在地： 埼玉県富士見市下南畑 7 4

宗旨・宗教： 曹洞宗

本尊： 聖観世音菩薩



＜山門・本堂を見る＞2014. 4 撮影↑

■由来（郷土富士見検定問題集より）

下南畑の興禅寺（こうぜんじ）は禅宗の一派で道元を開祖とする曹洞宗のお寺です。本尊の聖観世音菩薩は、室町末期の仏師、春日の作と伝えられています。天文年間（1532～1555）に火災にあい廃寺となり、その後江戸時代に川越渋井の蓮光寺住職によって再建されました。そのときは光禅寺といましたが、後に現在の興禅寺と改めたといひます。

山 門 前



■石塔（上写真の左の塔）



禅寺などで寺門の傍らの戒壇石に「不許葷酒入山門」（葷酒山門に入るを許さず）と刻まれた標語の石塔が立っています。これは、不浄のものや心をみだすものは、寺内に入ることは許さないとの戒めの言葉です。

葷酒（くんしゅ）とはネギ、ニラ、ショウガなど臭気の強い菜と酒の意で、
戒壇石とは師が弟子に戒を授ける儀式に用いるため築いた壇を意味します。

■青面金剛像（上写真の右の石造物）

山門前に立つ丸彫りの青面金剛（しょうめんこんごう）像は、人の身の丈ほどで文字が彫られていないという特徴があり、近隣にもあまり例のない庚申塔（こうしんとう）です。



※富士見市ホームページより（庚申塔40）

富士見市の庚申塔 40

造立年月日 紀年銘無し

所在地 埼玉県富士見市下南畑 74-1 興禅寺参道

分類 丸彫型

法量(センチメートル)

本体高 096 本体幅 035 本体奥行 000

本体銘

〔右〕 (雄鶏)

(日) (鈴) (猿・目)

〔正〕 (青面金剛) (合掌) (邪鬼 ↑) (猿・耳)

(日) (人首) (猿・口)

〔左〕 (雌鶏)

備考 市内唯一の丸彫型。同様のものは小川町、板橋区にあるが類例は少ない。三猿のある台石まで一石でつくられている。蛇・三ツ目・ドクロ面の瓔珞・持物なども異色である。



山 門



本 堂



竜胆 （リンドウの葉と花）
曹洞宗の宗紋
二大本山の一つの永平寺の寺紋



桐 （五七桐）
曹洞宗の宗紋
二大本山の一つの總持寺の寺紋



＜本堂の遠景・近景＞



境 内



写真のうしろは鐘楼

■ 供養塔



明治維新の慶応4年（1868）、下南畑の曹洞宗興禅寺（こうぜんじ）を占拠して、地元の資産家から金品の強奪を行っていた彰義隊の残党と地元の無頼漢（ぶらいかん）を加えた13人の一団がいました。それにたまりかねた村人が官軍に通報したため、彼らは上南畑と鶴馬の境である錫杖権現（しゃくじょうごんげん）の地で処刑されました。そのため、供養塔が興禅寺境内に造られました。供養塔には、その事件のあらましと天と誅（ちゅう）の文字が入った戒名が刻まれています。

※ [参考] 錫杖権現の場所

旧上南畑村と鶴馬村の境で、富士見川越道路（国道254バイパス）そばに錫杖権現（しゃくじょうごんげん）の角塔があります。ここは村の境であったことから災いや悪疫が村に侵入するのを防ぎ、村の安全を祈願して、宝暦（ほうれき）4年（1754）に瑠璃光寺念仏講中（るりこうじねんぶつこうじゅう）である折戸（おりと）地区（旧鶴馬村）の人たちによって造立されました。村人は「しゃくじょうさん」、「しゃくじさん」などと呼んで拝んだといわれています。



※富士見市ホームページより

富士見市の石地蔵（リスト67）

富士見市の石地蔵 67

造立年月日 慶応4年(1868年)

所在地 埼玉県富士見市下南畑74 興禅寺

分類 丸彫型立像

法量(センチメートル)

本体高 079 本体幅 025 本体奥行 017

本体銘

(延命型地蔵像)

台座銘

〔台右〕天正儀誅居士 天徑得誅禪定門

天真是誅居士 天安清誅禪定門

天吹透誅信士 天誠自誅禪定門

天応大誅信士 天光普誅禪定門

天無蔵誅禪定門 天指懸誅禪定門

天玄道誅禪定門 天如何誅禪定門

天悟了誅禪定門 各靈五月二十有一日卒

〔台正〕為一切精靈菩提

〔台左〕右儀誅居士者称難波田彈正来是誅居士者

彈正之裔也字英次郎雖然其真正不詳口

于時慶応四戊辰星仲夏二拾有一日忽然鶴

馬色於石神塚被行天誅者也依之預記以

官軍備前岡山之藩遊寄隊字南石藤三郎外

二拾四人来行之依之於当山禁浪土止宿者也

山主謹記

〔台裏〕〔 〕

備考 彰義隊残党の処刑の顛末を記す



■富士見市の石地藏（リスト5）

造立年月日：寛文12年（1672）

※富士見市ホームページより

富士見市の石地藏 5

造立年月日 寛文12年(1672年)

所在地 埼玉県富士見市下南畑74 興禅寺

分類 舟形光背型立像

法量(センチメートル)

本体高 151 本体幅 066 本体奥行 040

本体銘

〔正〕武州入東之郡川越領南畑村
(延命型地藏像)

道行二十三人

寛文十二年子四月 日

備考

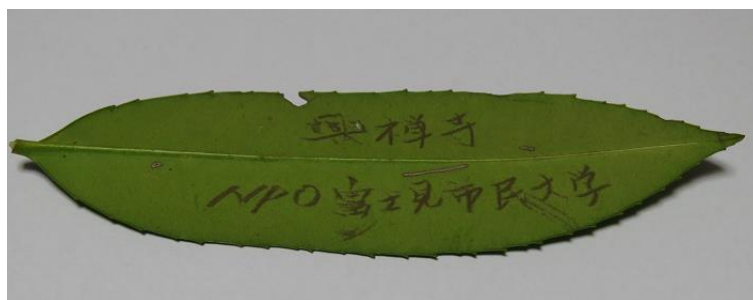


■郷土富士見検定問題集から問題

下南畑に有る興禅寺境内にあり、葉の裏にとがった物で傷つけて黒く変色させて、文字を書けることから「葉書の木」とも言われている木の名前は何か。

多羅葉

多羅葉（タラヨウ）は、モチノキ科の常緑高木で暖地に自生しており静岡以西に分布しているが、各地のお寺・神社に多く植えられています。葉は肉厚で**20cm** ほどあり長楕円形で葉の裏面をとがった物で傷つけると黒く変色し文字を書けることから「葉書の木」と言われ、「郵便局の木」と定められています。興禅寺（下南畑）境内に**2** 本植えられています。



記載日：2015/2/21

この内容は、「郷土富士見検定問題集」、「富士見市ホームページ」等から、記載しています。